

災害などから身を守るために

大雨による災害から身を守る

出水期であるこの時期に、大雨による災害から身を守るために、普段から、気象庁からの「注意報」や「警報」などが発表されたときに取るべき行動について考えてみましょう。

普段からの備えと早め早めの行動が大切です。自分たちの地域の危険箇所、避難場所や避難経路も確認しておきましょう。

■問合せ 市庁舎新館5階 危機管理課 防災連携係 TEL0897-52-1267

大雨になるおそれ
雨が降り出す

注意報

警報

非常事態

特別警報

■気象情報・空の変化に注意

- 周りより低い場所など、危険箇所を把握
- 避難場所や避難ルートを確認しておく

■最新の情報に注意して、災害に備えた早めの準備を

■雨・風の影響を受けやすい地区・避難困難者は早めの行動

- 気象情報や外の様子に注意
- 災害に備えて、家の外の備えを点検
- 非常用品や避難場所、避難ルートを確認

■自治体が発表する避難に関する

情報に注意し、必要に応じて
速やかに避難



■直ちに命を守る行動をとる

■市町村からの避難勧告等に従い直ちに避難所に避難！

■外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所に移動

【冷静な判断が大事！！ 周囲の状況に応じた行動を！】

【気象庁リーフレットより】

命にかかわるアナフィラキシー 蜂刺されに気をつけよう！

8月から10月にかけて蜂の数が増え、蜂刺されによる事故が多発します。蜂に刺されると重症化し、アナフィラキシーを発症する恐れがあります。

アナフィラキシーとは、数分から数十分で全身のかゆみや発赤、呼吸苦などの全身性アレルギー症状が出る極めて危険な病態を言います。

さらに重症になるとアナフィラキシーショックになります。治療が遅れば、心停止、呼吸停止、意識障害を起こします。アナフィラキシーを起こす原因に、蜂刺されがあります。多くの方は蜂に刺されても刺された部位の炎症だけで済みますが、時にアナフィラキシーを起こす人がいます。

蜂に刺された後、全身のかゆみや発赤が発現した場合は、ためらわず救急車を呼ぶが、最寄りの医療機関を受診しましょう。



楽しい花火も火事のもと!! 花火による火災を防ごう

日本の夏の風物詩であり、家庭で気軽に楽しめる花火ですが、火の始末や取り扱いを誤ると、思わぬところへ飛火して、火災や火傷（やけど）等の事故を引き起こします。

花火をするときは、次のことに注意しましょう。

- 燃えやすいものの近くで遊ぶのはやめましょう。
- 風の強い日にはやめましょう。
- 必ず大人が付き添い、子どもだけでは遊ばせないようにしましょう。
- 説明書をよく読み、正しく取り扱うようにしましょう。
- 花火を分解したり、数本まとめて点火するのは、絶対にやめましょう。
- 必ず水を入れたバケツを用意し、後片付けをしましょう。

